

今日のキーワード 『訪日客』、インバウンド消費ともに過去最高

近年の『訪日客』（日本を訪れる外国人旅行者）の増加が日本経済に好影響を与えています。2018年の『訪日客』の累計は3,119万2千人と前年比+8.7%となり、日本政府観光局が統計を取り始めた1964年以降最高となりました。インバウンド消費も同様に過去最高となりました。今後はサービス分野の充実などにより『訪日客』の多様なニーズを取り込み、滞在日数の長期化を進めることなどが必要とみられます。

ポイント1

12月の『訪日客』は263万2千人 2018年累計は前年比+8.7%の3,119万2千人

- 日本政府観光局が16日に発表した2018年12月の「訪日外客数」（推計値）は、前年同月比+4.4%の263万2千人でした。自然災害の影響で9月には落ち込みましたが、2018年の累計では前年比+8.7%の3,119万2千人となり、年間で過去最高を更新しました。
- 国・地域別（年間）にみると、中国が同+13.9%の大幅増加となり、全体をけん引しました。中国に韓国、台湾、香港を加えた東アジア4市場で、『訪日客』の70%以上を占めました。

ポイント2

インバウンド年間消費は過去最高！ 支出は買物代が最も多く、次いで宿泊費

- インバウンド消費も増加しています。観光庁が16日に発表した「訪日外国人消費動向調査」（速報）によると、2018年の訪日外国人旅行消費額は4兆5,064億円と過去最高となりました。1人当たりの消費支出は15万3千円となりました。消費額については昨年から調査方法を変更したため、同庁は従来ベースの推計方法による推計旅行消費額は前年比+8.7%の4兆8千億円になると公表しています。
- 国・地域別の1人当たり消費額では宿泊支出が多い欧米豪が高く、オーストラリア、スペインなどが上位となっています。全体を費目別にみると、買物代、宿泊費、飲食費の順となります。



今後の展開

『訪日客』の多様なニーズの取り込みが必要

- 政府は成長戦略の柱の一つとして、東京五輪・パラリンピックで訪日する人が増えると見込まれる2020年に『訪日客』4千万人、消費額8兆円を目標に掲げています。
- この目標を達成するには1人当たり20万円の消費額が必要となりますが、近年は15万円程度で横ばい傾向にあります。今後はモノ消費に加えて、『訪日客』の多様なニーズを的確にとらえて、日本国内での各種体験などのサービス（コト消費）需要を取り込みながら、滞在日数を更に伸ばす取り組みが必要とみられます。

ここも チェック!

2019年 1月16日 『街角景気』は現状、先行き判断DIともに悪化
2018年12月27日 今年を振り返るキーワード6 猛暑と『自然災害』

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。